



学校だより

令和5年9月29日
横浜市立茅ヶ崎東小学校
校長 宮本 仁志
都筑区茅ヶ崎東2-11-1
TEL 943-0802・0803

「ありがとう」という言葉のもつ魔力

校長 宮本 仁志

私がまだ小さいころに父親から「お前が将来職業を選ぶときには、『ありがとう』と言われる仕事に就けるといいな。」と言われたことを思い出します。私の父は、鶴見にある町工場で「溶接工」をしていました。父は、9人兄弟の末っ子で、中学校を出てすぐに就職しました。その頃の日本の鉄鋼産業は盛況で、仕事がたくさんあり、とても忙しかったようです。町工場での仕事は、先輩の職人から厳しく仕事を教えてもらい、父は毎日納期に間に合わせるために必死で働いたようです。現代のように勤務は週5日ではありません。土曜日でも仕事に出かけていました。町工場で決して収入は多いとは言えませんでした。それでも苦労しながら、私たち兄妹を育ててくれました。そんな父が、ある日、家でちゃぶ台を囲んでの夕食をたべているときに、「将来何になりたいんだ」という話があり、最後に父から言われた言葉が冒頭の「『ありがとう』と言われる仕事に就けるといいな。」でした。人から「ありがとう」と言われる仕事と言っても、その当時の私には実際の仕事をイメージすることができず、なぜ父がそんな話をしたのかピンときませんでした。しかし、耳に残る言葉でずっと覚えていました。今の職業を選択したのも、そんな父の言葉も影響したのかもしれない。

ところで、水を凍らせると結晶ができます。不思議なことですが、水に「ありがとう」と声をかけたときには、美しい結晶ができるのだそうです。一方、「ばかやろう」のように汚い言葉を浴びせると、水はそれに傷ついたように結晶ができなかつたり、バラバラに崩れたりするようです。声ばかりでなく、「ありがとう」「ばかやろう」と書いた紙を水に見せたときも同じだそうです。水は、言葉の持つ固有の波動を感知して、美しく端正な結晶やバラバラに崩れた結晶をつくると考えられているようです。水に音楽を聞かせると、なかでもクラシックの名曲などでは、例外なく整った結晶ができるそうです。ベートーヴェンの「運命」のような激しい曲でも、実に繊細な美しい結晶になるのだそうです。音楽の波動が水に影響を与えるようです。

以上は、水の結晶の研究をしている江本勝さんの説です。江本さんは、たくさんの結晶に出会った中でひととき印象的だったのは、「愛・感謝」という言葉によって水がつくった結晶だと言っています。そして、「愛」よりも「感謝」の波動の方が水に強い影響を及ぼすとも言っています。人間の体は70%が水だと言われています。江本さん流に考えれば、「ありがとう」と感謝されると、凍らせた水には美しい結晶ができるわけですから、体の中の水にも良い変化が起こり、心が明るく穏やかになるのではないのでしょうか。逆に、劣悪な言葉をかけられると、体の中の水が動揺し、心は不安定に波立つのではないのでしょうか。

「ありがとう」という言葉には、人の心を和ませる魔力があります。「ありがとう」を生活の中に充満させたいものです。「ありがとう」と声をかけられた人も、また、「ありがとう」と声をかけた人も、共にきらめく目と輝く笑顔で美しい人生が歩めるのではないのでしょうか。私の父がそこまで知っていたのかどうかはわかりませんが、何か言葉の持つ魔力を感じるものがあつたのかもしれない。私も日頃から「ありがとう」の言葉をかけられるように過ごしていきたいと思っています。

今、子どもたちは、運動会に向けて、今出来ることを一生けん命に取り組んでいます。頑張っている子どもたちへも、それを支えている保護者の皆様や教職員へも感謝の気持ちをもって学校生活を過ごしていきたいと思えます。保護者の皆様にも、引き続きご家庭での健康観察等ご協力いただくことが、多いと思えます。今後も学校の教育活動へのご支援・ご協力よろしくお願ひいたします。

※昨年の4月から、本校の保健室で勤務していただいた黒川奈緒養護教諭が、9月末日で本校の勤務を終了し、茅ヶ崎台小学校へ異動となります。